

近江八幡市立老蘇小学校

令和3年度
エコ・スクール
活動報告書

活動テーマ

老蘇の自然から世界とつながるわたしを感じよう

学校敷地内に造成されたビオトープや、学校近隣の自然環境を活用し、地域や保護者の協力を得ながら、老蘇学区を中心とした身の回りの自然環境について考える機会をつくり、ふるさとを愛するとともに、持続可能な社会に貢献できる児童の育成をめざす。



老蘇小学校ビオトープ

1 学校の概要

本校が立地している近江八幡市安土町老蘇地域は、近江八幡市の最東南にある。学校の周りには、田畑が広がり、米や野菜などの農作物の生産や養鶏や養豚などの畜産業が盛んである。近隣には、大規模な工場が建ち並び、新興住宅の建築も進んでいるが、校区内には、豊かな自然が残り、夏にはホタルを見ることもできる。平成14年(2002年)には、PTAや地域の住民の協力のもと、敷地内にビオトープが造成され、ビオトープ委員会が立ち上げられた。児童にとっては遊び場であり、地域の住民にとっては、交流や憩いの場となっている。

また、平成29年度(2017年度)からは、コミュニティスクール(学校運営協議会制度)を取り入れ、地域の教育力を活かした学校運営を行っている。

今年度は、昨年同様コロナ禍で例年通りの活動が出来なかったが、地域住民とともに工夫をして、ふるさと老蘇の魅力に気づき、ふるさとを愛し、ふるさとのこれからの在り方について考える子どもの育成をめざし、エコ・スクールとして地道な活動を続けている。

2 活動の実際

(1) ビオトープを中心とした活動

ア 学習

コロナ禍でもビオトープは子どもたちの

貴重な遊び場であると同時に、学習の場である。生活科や理科の学習では、ビオトープの草花や生き物を観察し、季節ごとの自然の様子を学んでいる。縦割り活動や、委員会主催のイベントはできていないが、授業だけではなく、三密状態をさけられるビオトープには、中休みや昼休みに大勢の児童が足を運んでいる。

特に4年生においては1年間を通して、「ビオトープ図鑑を作ろう」「湖とわたしたちの暮らし」理科、また図画工作科、社会科と連携させながら行った。



整備作業の様子

イ 地域

ビオトープ委員会は、学校、PTA、地域住民からなる組織である。年間5回の整備作業を行うだけでなく、ビオトープをつかった生き物観察会やアウトドア体験、ビオトープまつり、お月見コンサートなどを行っている。子どもたちは、自然の中での活動を楽しみながら、自然に親しみ、ふるさとのよさを味わっている。

今年度は、昨年同様にコロナ禍ということで、整備作業とともに実施していた生き物観察会やアウトドア体験を中止し、整備作業を2回のみ行った。

また、おいそまちづくり協議会の防災関連行事に利用されることもあり、地域住民の交流の場ともなっており、コミュニティスクールとして、地域の教育力向上の一端を担っている。

(2) 西の湖をつかった活動

1年生から3年生では、ビオトープで水環境について考える。4年生では、安土学区にある西の湖や、馬淵学区にある浄水場を訪れ、広い視野から水環境について考える。西の湖や琵琶湖の水質の変化や西の湖に生息する魚や鳥の観察活動を通して、水環境の大切さに気づく。また図画工作科では西の湖に生息するヨシを材料にした行灯の制作を行い、「ヨシ灯り展」に出品した。古来にわたって、人々の生活と湖との関わりを考える学習にもつながった。



「ヨシ灯り展」の作品

(3) 田んぼをつかった活動

5年生では、「老蘇の米作りに学ぶ」～水環境に目を向けて～を社会科、理科、家庭科と関連させながら、例年地元営農組合、JAグリーン近江、びわこ揚水機場、ぼてじゃこトラストの方々の指導のもと、米の栽培と収穫を行っている。そこでは、もみまきに始まりニゴロブナの放流、水生生物の観察や揚水機場の見学活動など、米の栽培における水の大切さや、人間や生き物と水環境の関わりについて、体験的に学ぶことができた。

米の収穫後は、お世話になった方々を招き、「お米感謝祭」を開催するのであるが、今年度も、とにかく「食べる」活動が御法度であり体験できていない。米づくりの工夫や努力、生産者の願いなど、映像での学習や調べ学習してわかったことを、オープンスクールで発表するだけの取組で終わった。

(4) 身近な資源をつかった活動

本校では例年、給食の牛乳パックをリサイクルしている。全校児童が、給食後に牛乳パックをきれいに洗い、切り広げ、それを干す。翌朝、環境委員会の子どもがそれを集め、回

収ボックスに入れる。集められた牛乳パックは、業者が回収し、リサイクルされる。

しかし、昨年度と今年度は、給食の牛乳パックを各自が手洗い場で洗うことは感染リスクを伴うため中止し、家庭から出た牛乳パックとアルミ缶の回収のみの取組とした。

また例年は、5月と11月には、PTA活動の一環として、資源回収活動を行っているが、これも昨年度同様に中止となった。資源回収の収益はPTA会費に繰り入れ、学習活動に活用しているが、昨年度・今年度の収益はなしであった。

3 成果と課題

(成果) 老蘇地域は自然環境や地域の支援体制が手厚く、少人数の本校は環境教育を進めるための条件に恵まれている。コロナ禍の学習でも、その恵まれた素材を活かして学習活動を展開することができた。

各学年で老蘇の自然を中心に、学ぶべきテーマを年間指導計画に位置付けたことにより、校内での共通理解が行えた。また、連携して地域の自然環境や素材を系統的・横断的に知り、学び、体験することを効果的にとり入れたことで、児童は自然のすばらしさや、ふるさと老蘇への興味・関心を高め、よさを再発見することができた。

(課題) 実践を進める中で、児童の主体性を生かした学習を展開させるためには教材の組立て方が重要であると感じた。児童の主体性が発揮される時は、その教材に対して児童が興味関心を持ったときである。教材との出会わせ方を工夫することにより、児童の関心は高まる。まず、インパクトのある出会わせ方をして、その後、「どうしてかな。」や「もっと調べたいな。」と児童が考えるような問いかけをすることが必要である。学習課題、単元を貫いて児童にとって魅力的なものを設定する必要がある。そのために、第三者的な課題ではなく、自分の生活や自分の未来に関係があるような「自分ごと」と捉え、取り組めるような授業づくりを追求していきたい。

学校名	近江八幡市立老蘇小学校
住所	近江八幡市安土町東老蘇1300
電話番号	0748-46-3079
E-mail	oiso-es@omihachiman.ed.jp